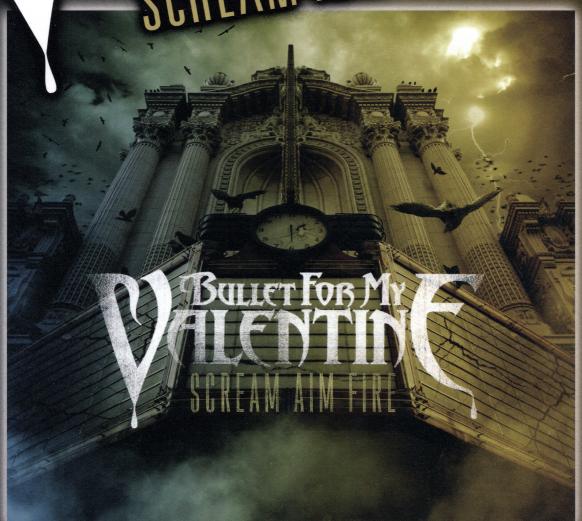
SCREAM AIM FIRE





BULLET FOR MY ALENTIN SCREAM AIM FIRE

SCREAM AIM FIRE	{
EYE OF THE STORM PT · 47 · 47 · 48 · 28 · 24	26
HEARTS BURST INTO FIRE	46
WAKING THE DEMON	67
DISAPPEAR	83
DELIVER US FROM EVIL	
SAY GOODNIGHT	130
END OF DAYS	145
LAST TO KNOW	16E
FOREVER AND ALWAYS	179

本書の採譜と版面の権利は発行者・発売者が所有・管理しています。 全部または一部を無断で複製使用することを禁じます。

"TAKE IT OUT ON ME" "NO EASY WAY OUT" は収録しておりません。

著作権の都合により

発行: EMI MUSIC PUBLISHING JAPAN/発売: オクト出版社



BULLET FOR MY ALENTIN





01. SCREAM AIM FIRE

ギターはオーバーダビングを含めて最大4本の演奏だが、基本的に はギター1,2を弾き、ギター・ソロの16小節のみ、ギター3,4 を弾く形にすれば、オリジナル・メンバーのままでライブ演奏が可 能だ。また、基本的にどのパートのギターも6弦を全音下げてチュー ニングする、ドロップDチューニングでのプレイとなっている。こ のチューニングの場合は、4弦とオクターブ違いの同音程となるた め、ルート、5度、オクターブの3音による3度抜きのコードが、 指一本でセーハするだけで押さえられるというメリットがある。そ の反面、単音のフレーズを弾くときに6弦がストレッチとなった り、張りが弱くてピッチが不安定になりやすいなどのデメリットも ある。しかし、メタル系のバンドでは、ほぼ常識となっているチュー ニングなので、6弦を太めのゲージに張り替えるなど対策をとった 上で力強いピッキングで弾くのが望ましい。ベースも同様で、4弦 を全音下げるドロップ Dチューニングだが、5弦ベースで通常の チューニングでもかまわない。また、テンポの速い8分連符が多い ので、指よりピックで弾いた方が良いだろう。ドラムは、バスドラ が細かいので、ダブル・キックのペダルセッティングは必須だ。

02. EYE OF THE STORM

ギターとベースは、最低弦を全音下げてチューニングする、ドロッ プDチューニングでのプレイだ。オーバーダビングが多いため、オ リジナル・メンバーのみでのライブでは、このまま完全に再現する 事は出来ない。しかし、あえてサポートなしで演奏するのであれば、 ギター・ソロでのハーモニー・パートを無視するか、逆にハーモニー を重視してバッキングをベースに任せてしまうかの、どちらかとな るだろう。前者の場合はハーモニーの美しさが失われ、後者はサウ ンドの厚みが失われるが、ライブの迫力を重視するなら前者の方が 無難だろう。ギター・ソロ前のブリッジ部のピッキング・ハーモニ クスは、同時に全音半や2全音のチョーク・アップ・ダウンを行う トリッキーなフレーズだ。柔らかめのゲージを張っていても苦しい プレイなので、あらかじめ指を鍛えておこう。ギター・ソロは、い きなり1拍3連のアルペジオ・フレーズだ。コードの進行と同じタ イミングでポジションを変えて行くが、バックのビートが16を刻 んでしまっているため、これだけ長いフレーズを正確に弾いていく のは感覚的にも難しいので、集中的な練習が必要だろう。

03. HEARTS BURST INTO FIRE

全てのギターとベースは全音下げた上に、最低音弦を2全音下げる変則チューングで演奏されている。ここまでチューニングを下げての演奏は、それほど多く行われないが、こんなに下げてしまうと弦の張りが弱くなりすぎるため、あらかじめ太いゲージの弦を張ったギター(ベース)を用意しておこう。また、オーバーダビングでアコースティック・ギターのアルペジオもあるので、ライブ時には素早く持ち替えられるように、あらかじめスタンドにセットしておくと良いだろう。ちなみに、この変則チューニングは1弦からD、A、F、

C、G、Cと合わせる。ベースはF、C、G、Cなのでくれぐれも間違えないようチューニングしよう。イントロ1のフレーズは、スローなライトハンド・タッチと速いアルペジオ風のライトハンド奏法を行っている。後者のライトハンド奏法でのフレーズは、4小節のあいだピッキングせずにハンマリングとプリングとライトハンドの力のみで演奏しているところが特徴だ。また、イントロ2から若干テンポが早くなっているので気をつけよう。エンディングは、2小節パターンのハーモニーがずれながら繰り返しリットするアレンジだ。ここは息を合わせるようにしよう。

04. WAKING THE DEMON

ギターとベースは全音下げて、さらに最低音弦を全音下げる変則 チューニングでのプレイだ。柔らかい弦のまま緩めるとピッチが不 安定になりやすいので、あらかじめ太いゲージに張り替えておこう。 ギターはオーバーダビングで最高4本同時に演奏されているが、ギ ター1,2のパートを弾けば、ほぼこのままライブも可能なアレン ジだ。イントロからの4小節パターンのリフは、そのままテーマ のバッキングとなっている。このリフは4,5,6弦の4フレットを セーハで押さえたままプリング・オフで弾いていくパターンだ。テー マはほとんどが16分を刻むバッキングだが、サビでは倍テンポと なり、ゆったりとハーモニーを聞かせる仕掛けだ。ブリッヂを経て ギターソロはテーマのバッキング上に展開される形式となっている が、そうとは感じさせないほどしっかりと考えられたフレーズで演 奏されている。ソロ後半は、ツイン・ギターのハーモニーによるア ルペジオ風のフレーズだ。ここも、テーマのリフ同様プリング・オ フをうまく使ってプレイしているところが特徴だ。ここでは、所々 ストレッチとなる箇所もあるので、あらかじめよく練習しておこう。 ドラムは32分や16分の3連のキックが決められるかが、鍵だ。

05. DISAPPEAR

ギター、ベースとも最低音弦を全音下げるドロップDチューニング でのプレイだ。オーバーダビングによるソロやオブリガートがある が、オブリガートはほとんど聞こえず無視してもサウンドに影響は 少ないため、ソロのみどちらかがギター3のパートを弾けば問題な くライブが可能なアレンジとなっている。そのギター・ソロも始め 4小節はトレモロ・ピッキング、後半は1拍3連のタイミングでペ ンタトニック・スケールを下リ、最後はトニックのナチュラル・マ イナーをかけ上がるという構成で、きちんと考えられたフレーズと なっているため、コピーしやすいはずだ。途中、2全音のチョーキ ングがあるが、これは柔らかめのゲージが張ってあれば無理なく弾 けるポジションだ。このようなプレイはチューニングが狂いやすい ため、チューニング時によく引っ張って余分な緩みを無くしておこ う。また、同時にチューニング・ロックなどがあればさらに良いだ ろう。ベースは曲自体のテンポが速いため、ピックでのプレイが良 い。ドラムは頭から16分のキックがあるのでツイン・ペダルは必 須だ。また、パワフルな曲想のため、普段より強めに叩くイメージ で演奏しよう。

06. DELIVER US FROM EVIL

ギター、ベースとも最低音弦を全音下げるドロップDチューニング でのプレイだ。ギターは最大同時4本のオーバーダビングだが、ギ ター・ソロのみ、どちらかのパートがギター3を弾けばなんとかラ イブも可能なアレンジだ。その場合、ハーモニーは失われるが致し 方ないだろう。また、そのソロでのバッキングはパターンの8小節 目のフレーズが、ギター2とベースはユニゾンなので、ギター1の 方を弾いて、ベースとのハーモニーのフレーズにした方がロスが無 い。また、どちらのギターもソロのフレーズをハーモニーで弾いて しまう事も考えられるが、ベースだけではサウンドが痩せすぎてし まうため、前者のパターンが良いだろう。5分超えという長い曲だ が、楽譜を見ながらパターンと曲構成を把握してしまえば、さほど 苦ではないはずだ。バッキングのパターンもソロのフレーズも、こ れ以外ないと言うほど作られたアレンジになっているため、このま ま完全コピーして弾けばOKだ。エンディングがこのままではフェ イド・アウトのため、ライブ時には何か別のエンディングを考える 必要がある。例えば、エンディングの8小節を繰り返した後、イン トロ頭のGm2小節リフの全パートユニゾンはどうだろう。

07. SAY GOODNIGHT

クリアー・トーンのギターのアルペジオが美しいスローテンポのバ ラードだ。ギターとベースは、全音下げてチューニングするセッティ ングでのプレイだ。こういった変則チューニングでは、あまり細い (柔らかい) ゲージの弦を張っておくとピッチが不安定になりやす いため、あらかじめ太い(硬い)ゲージの弦に張り替えておくと良 いだろう。イントロからのクリアートーンのアルペジオは、コーラ ス・マシーンのような空間系エフェクターを使って、ステレオ・オ ウトで広がりのある雄大なサウンド・メイクがいいだろう。途中か らハードなディストーション・サウンドに変わるが、それもこのセッ ティングのままディストーションのフット・スイッチを切り替えれ ば〇Kだ。イントロやソロでのフレーズをプレイするパートは、ディ ストーションだが、さらにリバーブやディレイを併用して奥行き感 のあるサウンドを作ろう。ソロやブリッヂGにオーバーダビングが あるが、ソロのEG3は無視、ブリッヂGはEG2,3をプレイす る形で演奏すれば、オリジナル・メンバーだけで再現も可能だ。そ の場合、ベースはブリッヂGのEG1をオクターブ下で弾くとサウ ンド痩せが軽減出来るだろう。

OR, END OF DAYS

イントロから疾走する、ハイスピードのハード・ナンバーだ。ギターとベースは全音下げてチューニングし、さらに最低音を全音下げる変則チューニングでのプレイだ。1弦からD、A、F、C、G、Cのように合わせる(ベースはF、C、G、C)が、これだけ下げてしまうと通常の柔らかいゲージだとピッチが不安定になりがちなので、あらかじめ太目のゲージに変えておく事をお勧めする。ギターは、オーバーダビングで最大同時4本出てくる。ライブ時にはギター

1と2のパートのみでも、若干音痩せは否めないが、再現可能なアレンジだ。また、ソロだけでなくバッキングも考え尽くされたフレーズで構成されているため、最後まで自由なプレイは許されない。もちろん寸分違わぬ完全コピーでの演奏を目指して欲しい。また、ミスなく弾くのはあたりまえだが、このハイスピードの疾走感を失う事無く保つには、力強くはっきりとしたピッキングが重要だ。全てのフレーズをミス無く弾けるようになったら、ピッキングに意識を集中して練習するのが攻略の近道だ。ベースは、やはりテンポの速い刻みがあるため、ピックで弾いた方が良いだろう。ドラムは16分を刻むキックがあるためツイン・ペダルは必須アイテムだ。

09. LAST TO KNOW

ギター、ベースとも全音下げてチューニングしてのプレイだ。音域 的には、最低音のみ下げるドロップDチューニングでも演奏可能な のだが、サビ前のブレイクでのアルペジオのフレーズや.バッキン グ・パターンの弾きやすさから考えると,やはり全ての弦を全音下 げたチューニングの方がベターだろう。ギターはオーバーダビン グがあるので、同時に4本のギターが必要だ。これは、ソロのハーモ ニーとその部分のバッキングもハーモニーとなっているからなのだ が、どちらをとっても2本では成立しないアレンジなので、ライブ 向きとは言いがたい。強いて言ういうなら、ソロはギター3、バッ キングはギター1を弾くのが筋だが、サウンド痩せは否めない。ま た、ベースにバッキングを任せてソロのハーモニーを弾くことも考 えられるが、バランス的には無しだろう。やはり、ライブ時には何 か別のアレンジを考えた方がよさそうだ。ベースは比較的簡単なラ インだが、16分連符があるためピック弾きが良いだろう。ドラム はバスドラのツイン・ペダルはもちろんだが、イントロのシンバル のミュートのような、歯切れ良く力強いプレイを心掛けよう。

10.FOREVER AND ALWAYS

6分を超える長い曲だが、エンディングに8小節パターンを繰り返 しながらパートを増減させていくアレンジのためで、内容的に複雑 なわけではない。ギター、ベースとも全音下げた上、さらに最低音 弦を全音下げる変則チューニングでのプレイだ。ギターは、最大同 時4本のオーバーダビングとなっているため、このままではオリジ ナル・メンバーのみのライブでの再現は不可能だ。しかし、最新の エフェクターで、サンプリング機能を使って任意のタイミングで長 いフレーズをループできるものもあるので、そういったものをうま く使えば、まったく無理というわけでもないだろう。イントロをへ て、テーマからサビを2コーラス繰り返したら長いエンディングだ。 曲の終わりを思わせるような、トニックのロングトーンから徐々に パートを増やし、イントロと同じ8小節パターンを繰り返す。さら に、途中からは逆に減らしながら、最後はドラムのみとなって終わ るアレンジだ。この間一番変わらないのは最後に残るドラムのパ ターンだが、他のパートはどのタイミングで入り、また終わるか、 8小節の繰り返しのため、全体の曲の流れ(曲構成)をきちんと把 握しておかないと間違えやすいので注意が必要だ。

本書の記譜について

チョーキング (H.C、cho、1HC、2C···)

ロック・ギターの奏法には欠くことのできない技だ。これは、弦を引き上げて音程を上げるテクニックだが、指の関節でなく、手首のひねりを使ったものだということを覚えておこう。また、薬指の場合は中指&人差指、中指の場合は人差指を添え、複数の指で行なうことも頭に入れておくこと。なお、チョーキングの音程は半音(H.C)から2音(2C)程度までがポピュラーだが、最近ではフット・チューニングなどで3音(3C)近くにまでおよぶものもある。(譜例1)

低音チョーキング

5弦、6弦でのチョーキングは、弦を下方向へ引き下げるスタイルが使われる。 (プレイヤーによっては4弦をも引き下げることがある。)この場合は、手首の ひねりよりも指の関節を使う方が弾きやすい。(**譜例2**)

クォーター・チョーキング (Q.C)

別名"ブルース・チョーキング"と呼ばれる感覚的なベンディング (曲げる) と同じ。「クォーター =1/4」にはこだわらず、ゆっくりと上げたH.C を途中で止める要領で。ギター・プレイヤーによっては無意識でクォーター・チョーキングを行なっている場合も多い。(**譜例3**)

ハーモナイズド・チョーキング (cho)

チョーキングした弦とほかの弦を同時にピッキングし、和音 (ハーモニー) を つくり出すベンディング。(譜例4)

ダブル・チョーキング (W.C)

ハーモナイズド・チョーキングの一種だが、チョーキングした音ともう一方の音が同音になる場合を、特別にダブル・チョーキングと呼ぶ。(譜例5)

ダブル・ベンド (cho、H.C、1HC…)

2本以上の弦を同時にチョーキングするテクニック。(譜例6)

チョーク・ダウン(D)

チョーキングした音を、もとの音に戻す動作。(譜例7)

アップ (U、H.U、1HU、2U…)

チョーキングし終わった状態でピッキングする奏法。したがって、アップから チョーク・ダウンの場合は、チョーキングする過程の音を入れてはいけない。 "cho & D"と"U & D"では違うということだ。なお、1音アップがU、半音は H.Uで表わされる。(**譜例8**)

ハンマリング(H)

同一弦上において、ピッキングした音が消えないうちに、そのフレットよりもハイ・ポジションのフレットを指でハンマー(叩く)して音を出すテクニック。 (譜例9)

プリング (P)

(見た目には) ハンマリングの逆の動作をプリングという。しかし、単純に弦 から指を放すだけではなく、指の先で弦を捉え、それを下方向へ外すことによって音を出す。(譜例10)

トリル (Tr.)

ハンマリングとプリングを(リズムにほとんど関係なく)素早く連続させることをトリルという。記譜方法は、6連符などで表わす場合と、2つの音符で大まかに表わす場合があるが、どちらも同じと考えてよい。(譜例11)

スライド(S)

同一弦上において、指を滑らせ音をつなげる技。(譜例12)

グリス(g)

本質的にはスライドと同じだが、はじまりの音程や終わりの音程をはっきりさせない、比較的滑らせる距離の長いものをグリスという。音を装飾するグリス、そしてスピード感や迫力を出すための低音弦グリスなどがある。(**譜例13**)

ミュート (M)

ミュートとは"音を消す"という意味だが、その方法には2種類がある。ひとつは左手でミュートする方法 (コード・カッティング等に使う)、もうひとつは右手をブリッジ上に置く方法 (いわゆるミュート奏法)。なお、ミュートの加減にも度合いがあることを覚えておこう。プレスの具合によって、音程もやや変化する。(譜例14)

ビブラート (~~~)

音が伸びている状態でそれを揺らすテクニック。これには、弦と平行に指を揺らすフィンガー・ビブラート、チョーキングとダウンをくり返すハンド・ビブラートがあるが、ロックの場合後者が多い。(譜例15)

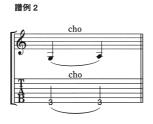
アーム (Arm)

アーム使用の場合は、その音程上下変化を曲線で表わす。細かいニュアンスは CDをよく聴いて耳でマスターしよう。(**譜例16**)

ピック・スクラッチ (Pick Scratch)

4弦~6弦の巻き弦をピックの横サイドでひっかく感じで、ハイ・フレットからロー・フレット (または、ロー・フレットからハイ・フレット) に向かって移動してノイズを出すサウンド・エフェクト的な奏法。スクラッチするスピードにより効果が変化する。(譜例17)























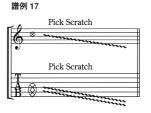












奏法について

ハーモニクス

弦長の2分の1、4分の1の弦上を軽く触れる程度に押さえ、ピッキングと同時に放して倍音を出す奏法。ギターのチューニングもこのハーモニクスを使って行なうことが多い。(**譜例1**)

ライトハンド・ハーモニクス

左手で出したい音程のフレットを押さえ、右手人差し指(ほかの指でもよい)で弦長の2分の1の位置を軽く触れる程度に押さえてほかの指でピッキングすると同時に放し倍音を出す奏法。(譜例2)

ピッキング・ハーモニクス

押さえたポジションから弦長の2分の1のところをピックを深めに持ち、ピックが弦をヒットするのと同時に親指の側面を弦に当てて倍音を出す奏法。(**譜** 例3)

ヴァイオリン奏法

ギターのコントロール・ボリュームやボリューム・ペダルを使って、あらかじめボリュームをゼロにしておき、ピッキングの後、徐々にボリュームを上げることでピッキング時のアタック音を消してヴァイオリンのような音にする奏法。(譜例4)

クロマティック・ラン

トレモロ・ピッキングを行ないながら、ブリッジ側からヘッド方向へ(もしくはその逆)押さえた指を滑らせていく奏法。(譜例5)

ハーモニクス・クロマティック・ラン

弦を軽く触れる程度に押さえた(ミュート)状態でクロマティック・ランを行なう奏法。(譜例6)

ボトルネック奏法

スチールやガラス製のパイプを指に装着し、フレットの代わりに弦を押さえ任意の方向へ滑らせて音程を変化させる奏法。パイプ状の物以外にバー状の物もある。ビール瓶の首の部分を加工して使用したのでボトル・ネックと呼ばれている。(譜例7)

スイッチング・トレモロ奏法

ギターのコントロール・スイッチを使い、どちらかのピックアップのボリュームをゼロにしておき、オン/オフをくり返す奏法。ギブソン系のギターに多く見られる1回路3接点のトグル・スイッチが使いやすい。(譜例8)

トレモロ・アーム・ビブラート

エレキ・ギターのトレモロ・アームで行なうビブラート。比較的音の揺れが大きくなる場合が多い。(**譜例9**)

フィードバック奏法

アンプから出た音が弦を振動させることでロング・サスティーンを生み出す奏法。スピーカーに対してギターの位置をコントロールしながらフィードバックさせるのがコツだ。(**譜例10**)

ピンチアウト奏法

指で弦をツマミ上げて放す奏法。ハンマリングやプリングなどのテクニックと 併用されることが多い。(**譜例11**)

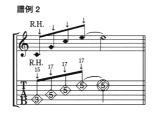
チョッパー奏法

主にベースで使われることが多く、親指は弦を叩くように、ほかの指は弦を引っ張り上げて放し、パチンと指板に当てる奏法。オクタープ間を交互に弾くことでパターンを作る場合が多い。(**譜例12**)

ピッチベンド

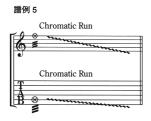
主にシンセサイザーのホイール・コントロールで行なうピッチ・コントロール。(譜例13)







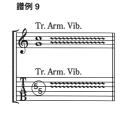




















SCREAM AIM FIRE

スクリーム・エイム・ファイア Words & Music by Matthew Tuck, Jason James, Michael Paget and Michael Thomas





































EYE OF THE STORM

アイ・オブ・ザ・ストーム Words & Music by Matthew Tuck, Jason James, Michael Paget and Michael Thomas









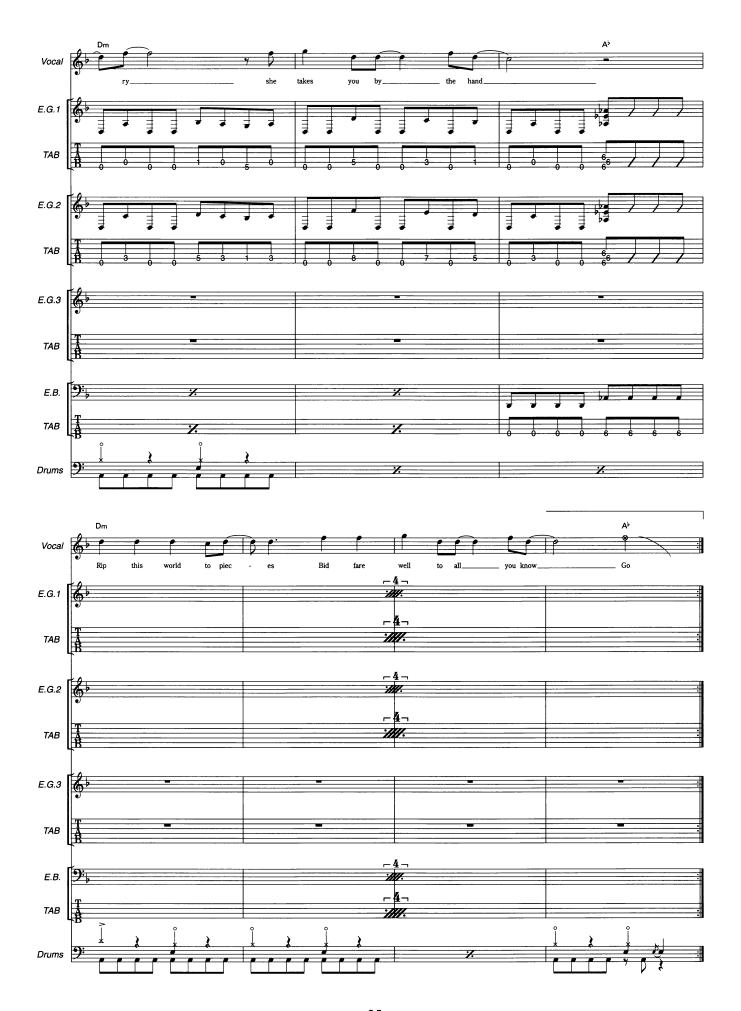












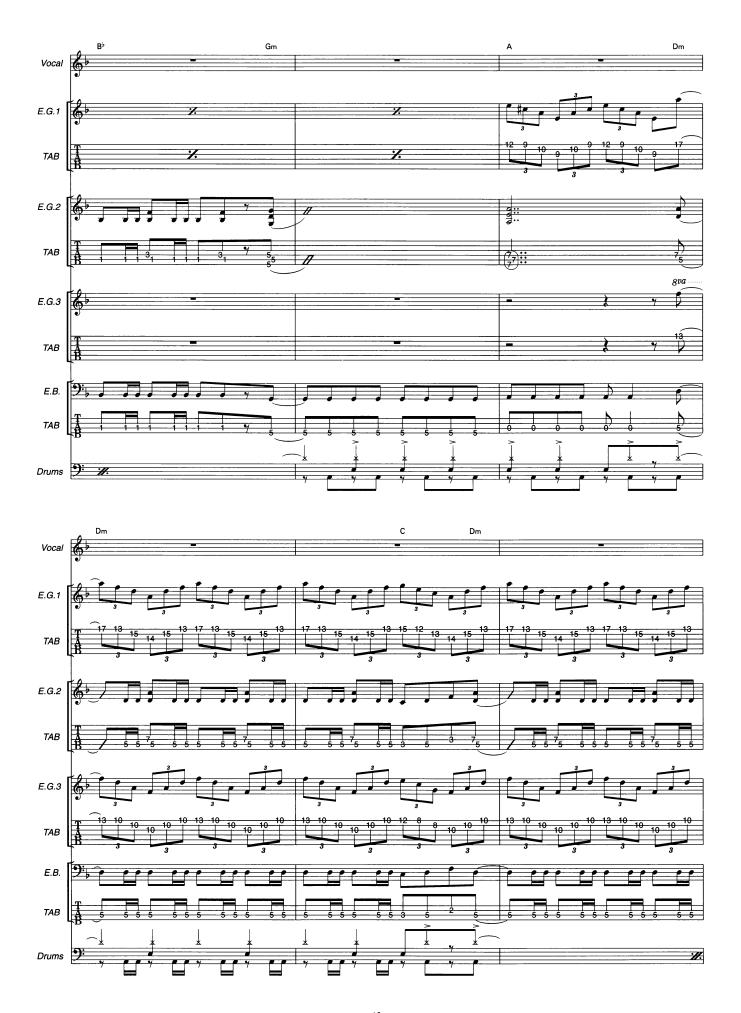




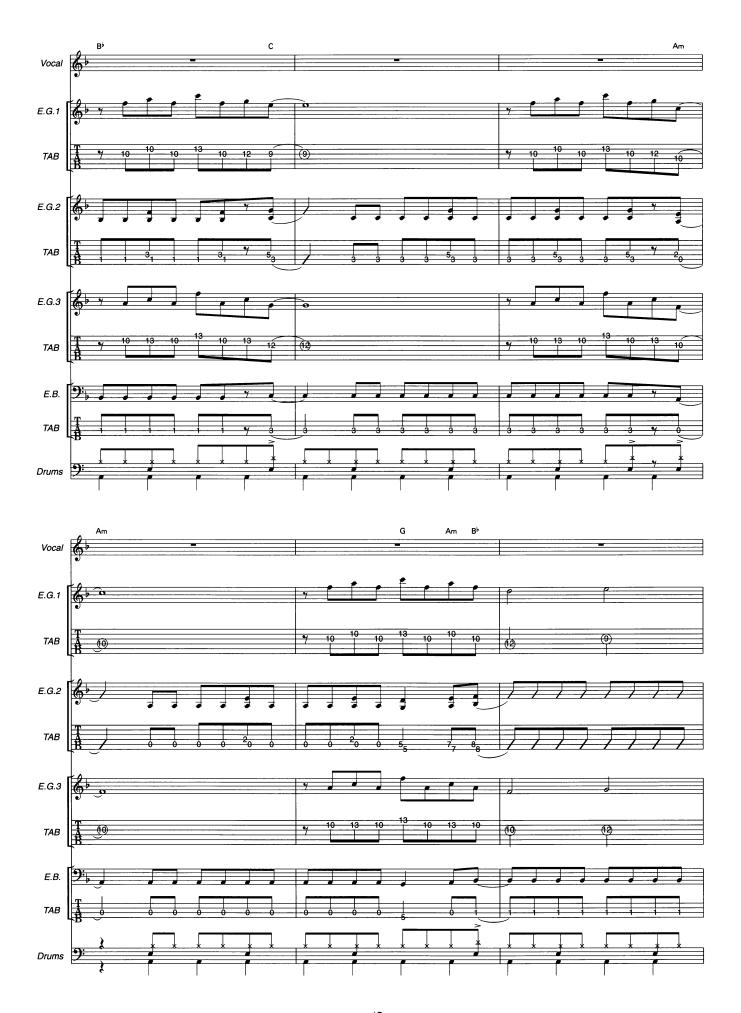
















HEARTS BURST INTO FIRE

ハーツ・バースト・イントゥ・ファイア Words & Music by Matthew Tuck, Jason James, Michael Paget and Michael Thomas







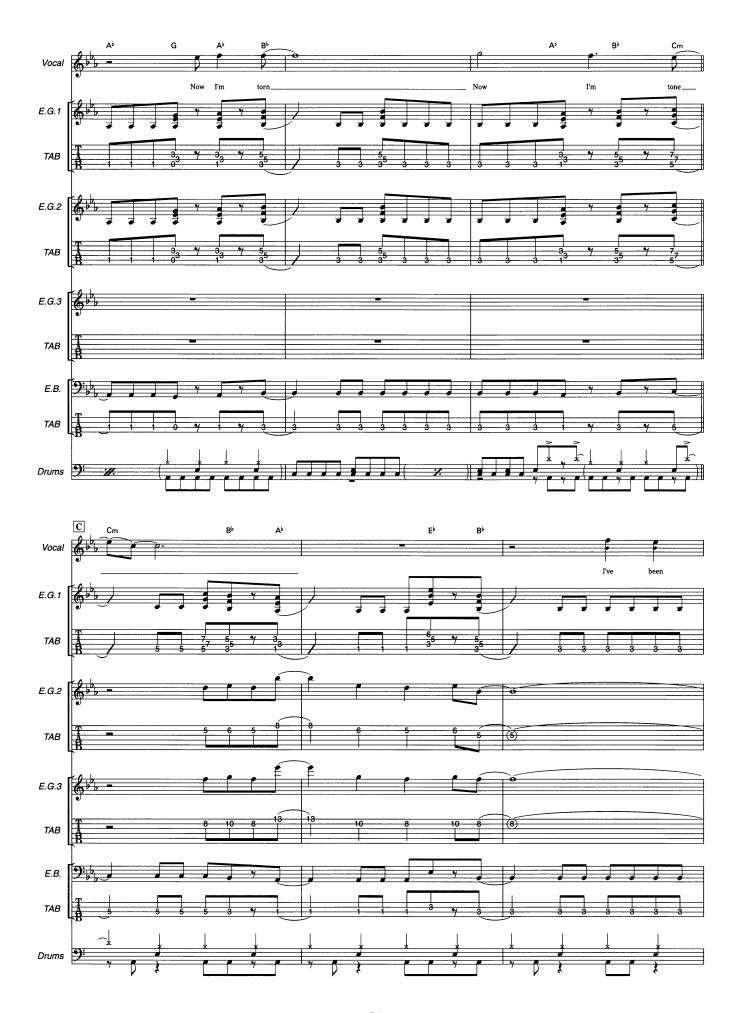




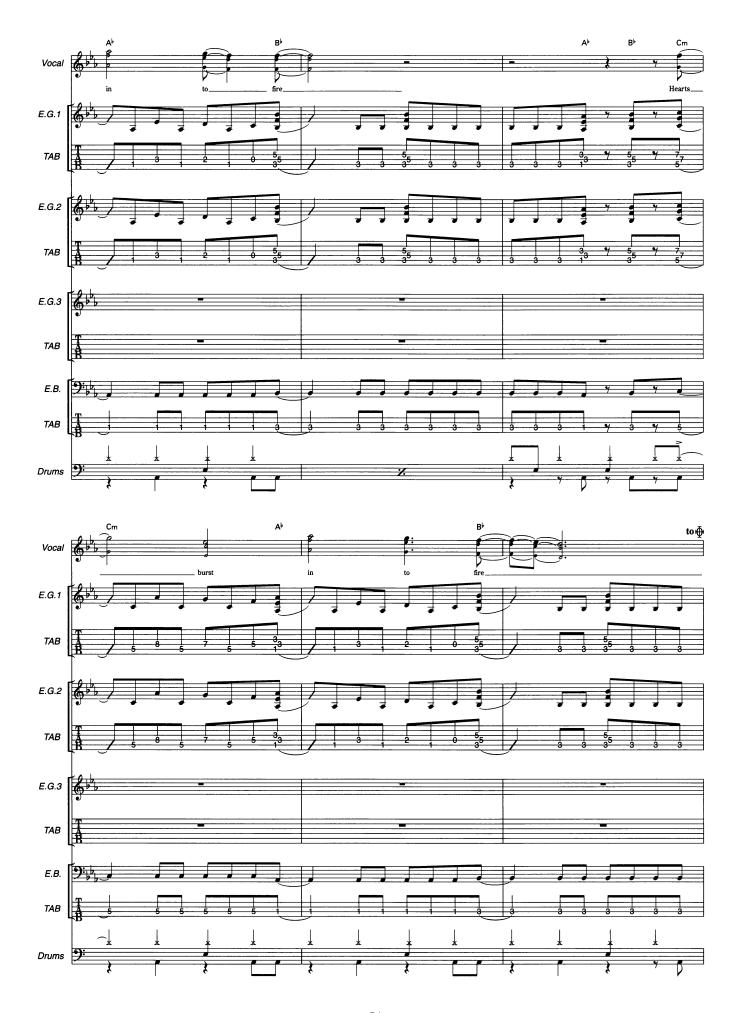






























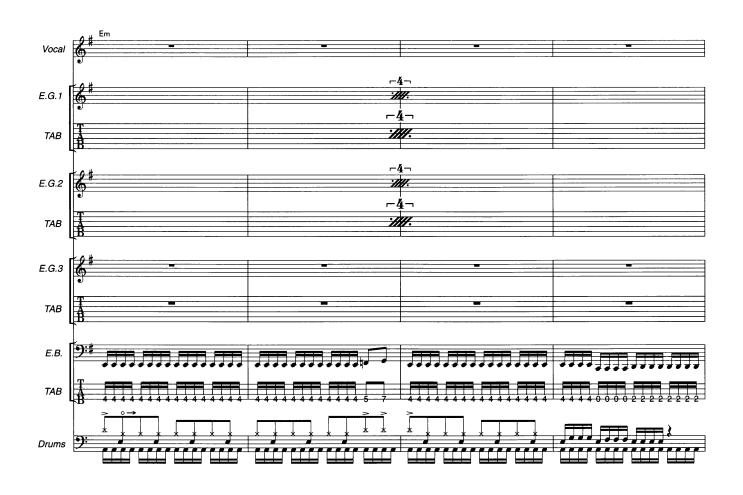


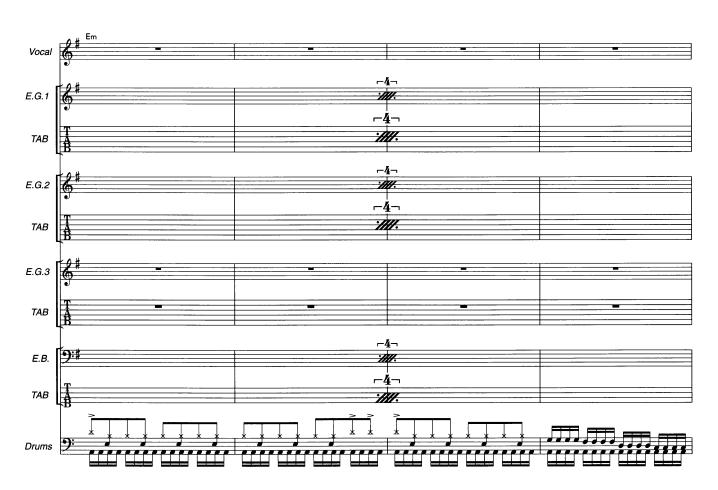
WAKING THE DEMON

ウェイキング・ザ・ディーモン Words & Music by Matthew Tuck, Jason James, Michael Paget and Michael Thomas





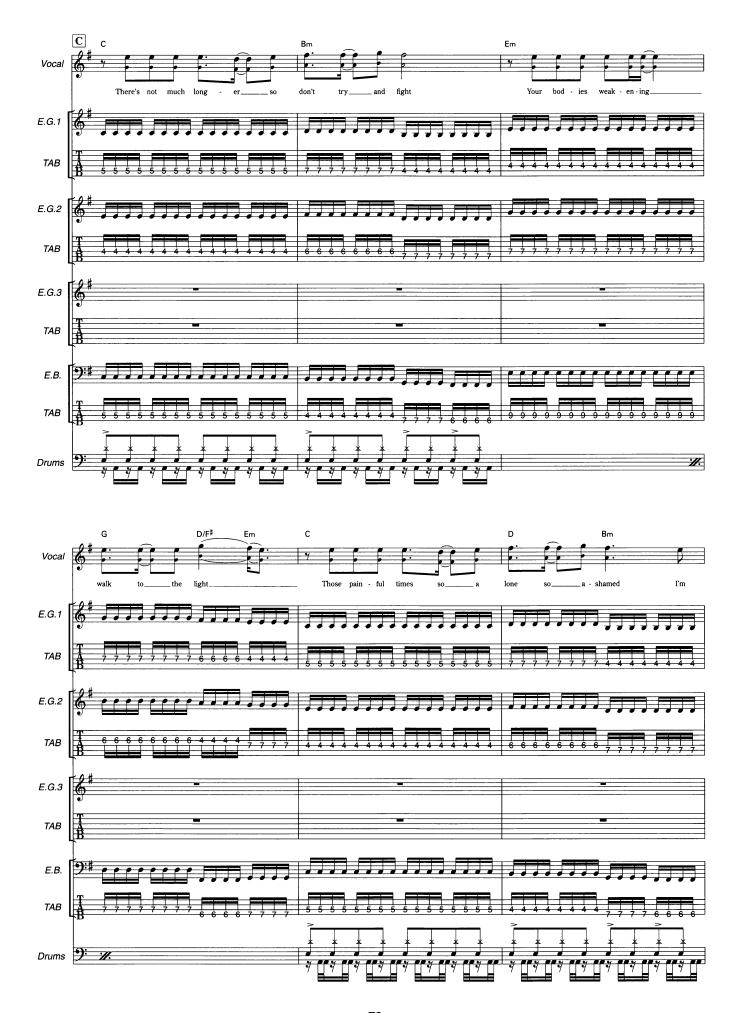














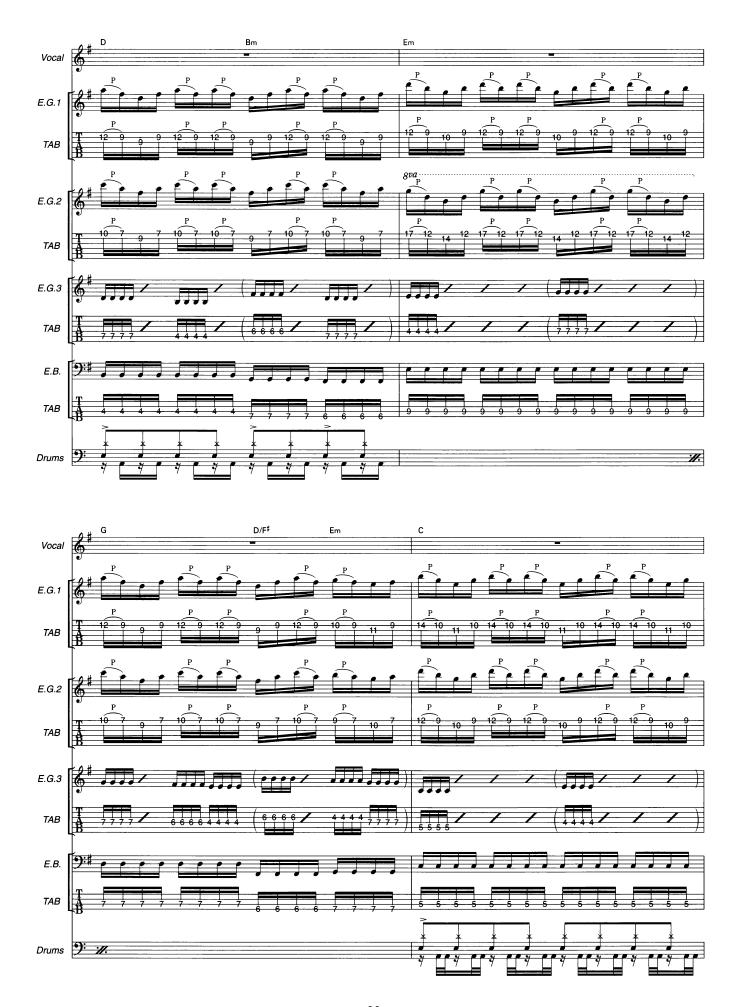
















DISAPPEAR

ディスアピア Words & Music by Matthew Tuck, Jason James, Michael Paget and Michael Thomas



© EMI MUSIC PUBLISHING LTD.
The rights for Japan controlled by EMI Music Publishing Japan Ltd.
Authorized for sale only in Japan.





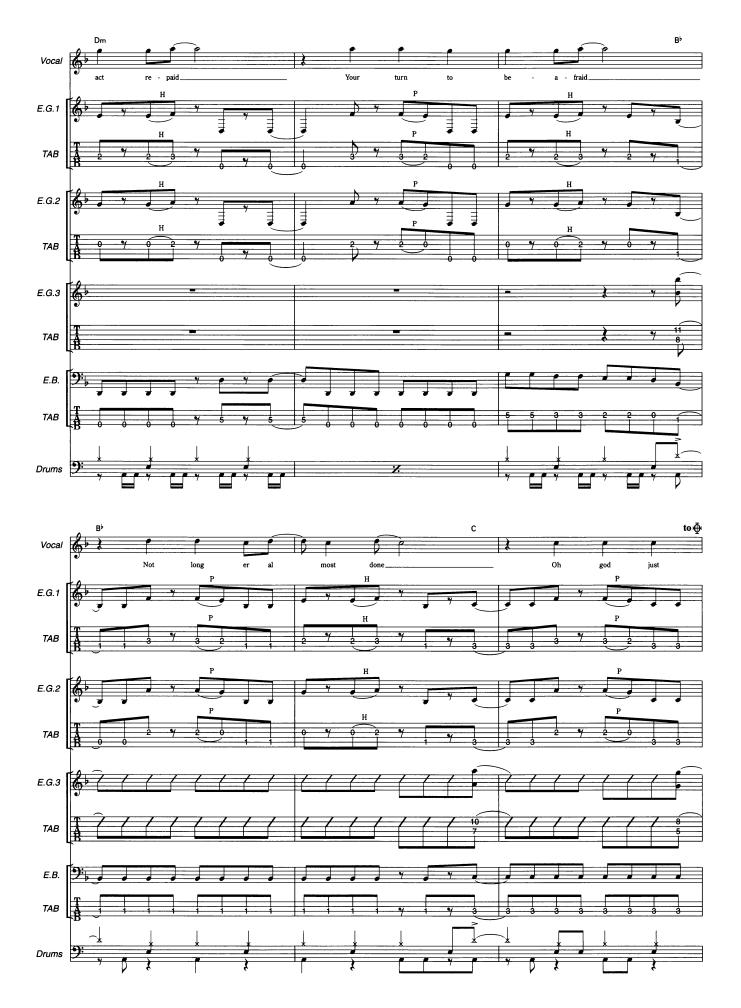








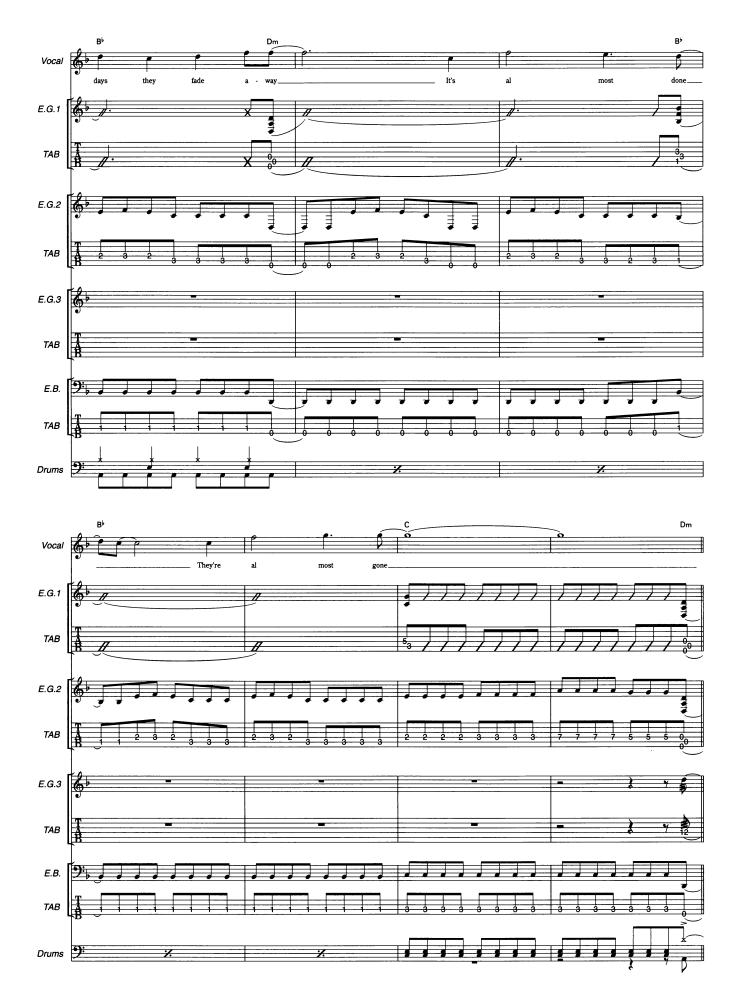












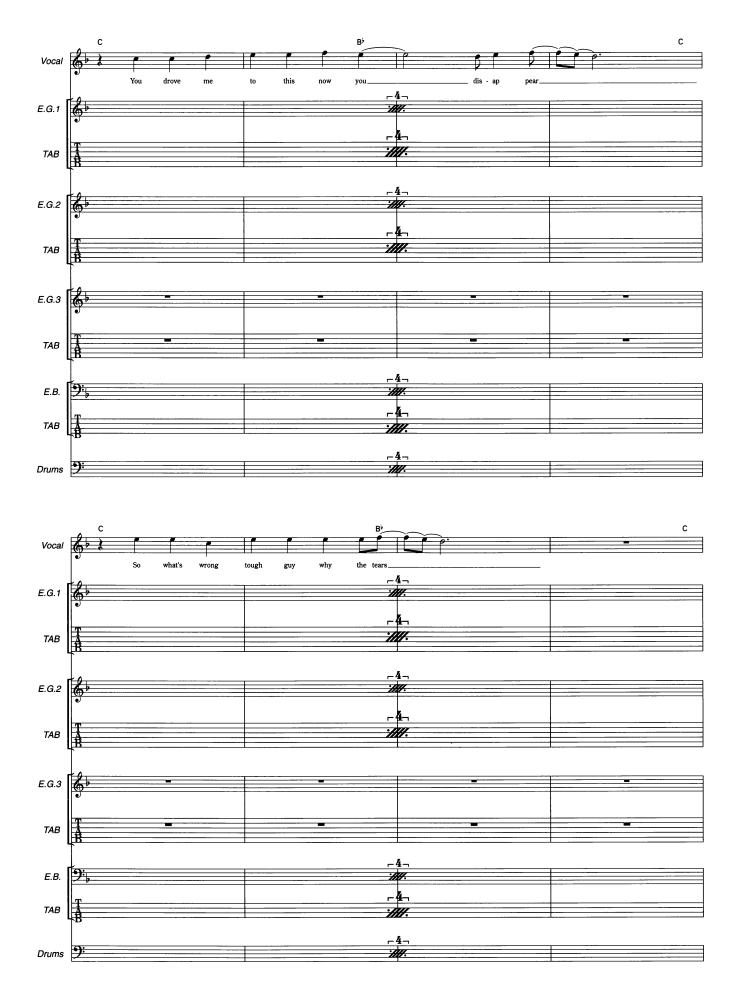












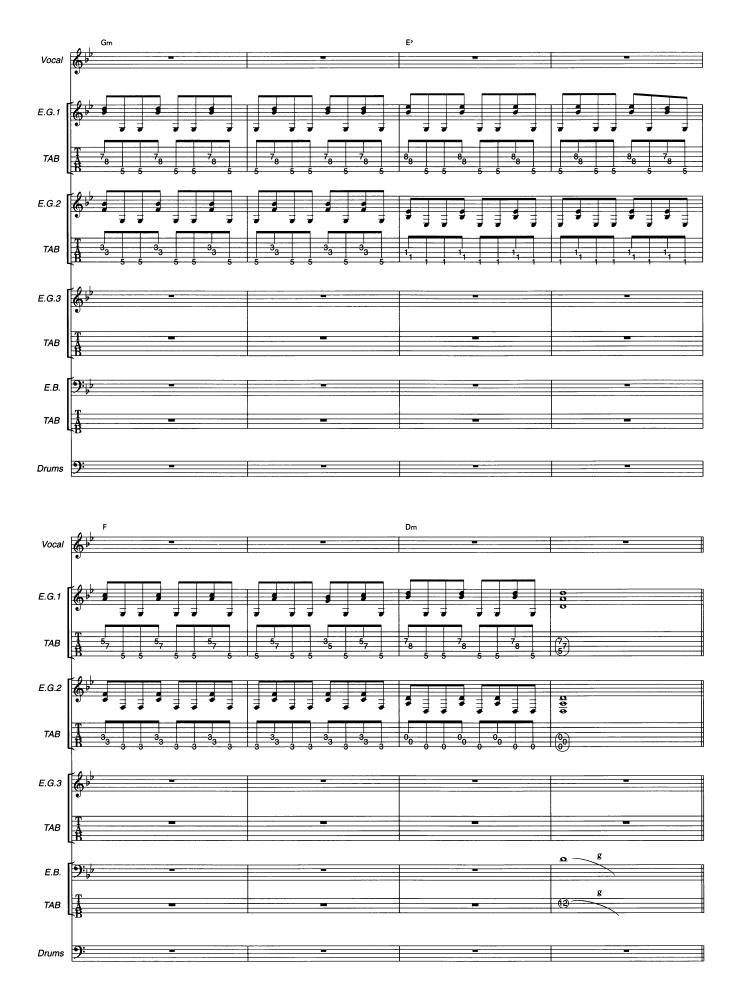


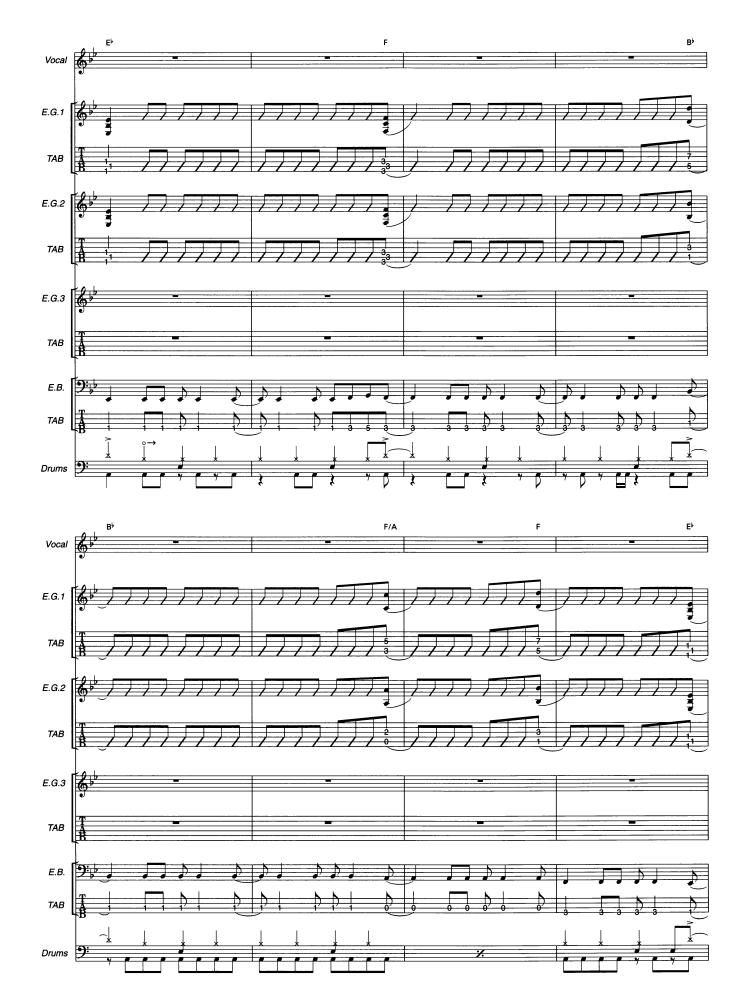


DELIVER US FROM EVIL

デリヴァー・アス・フロム・イーヴル Words & Music by Matthew Tuck, Jason James, Michael Paget and Michael Thomas













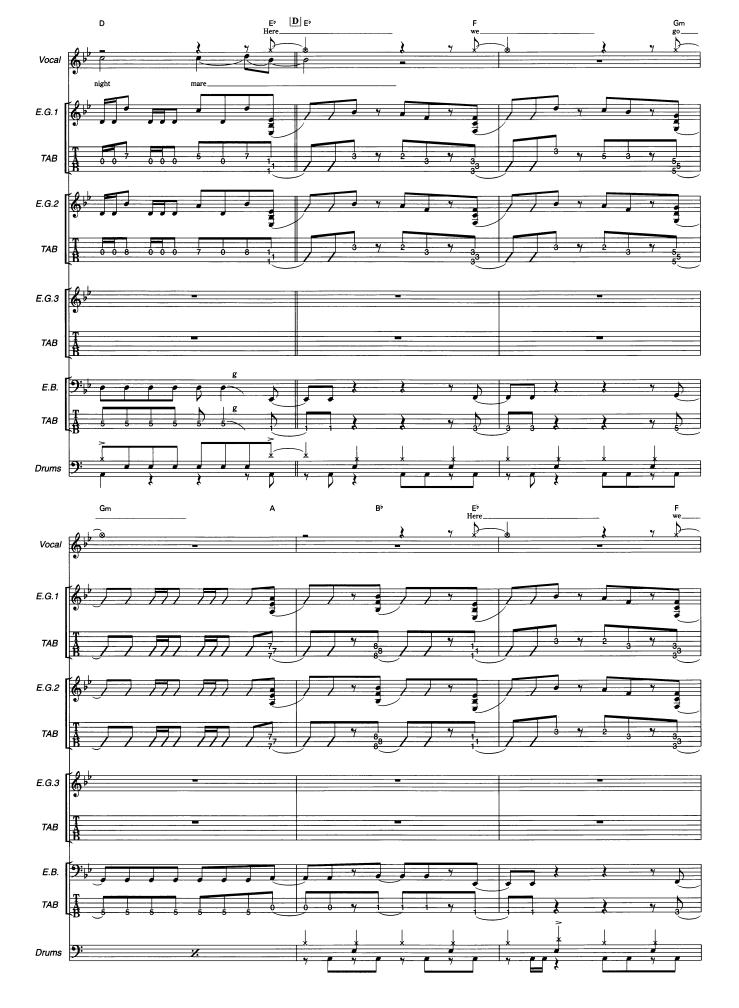


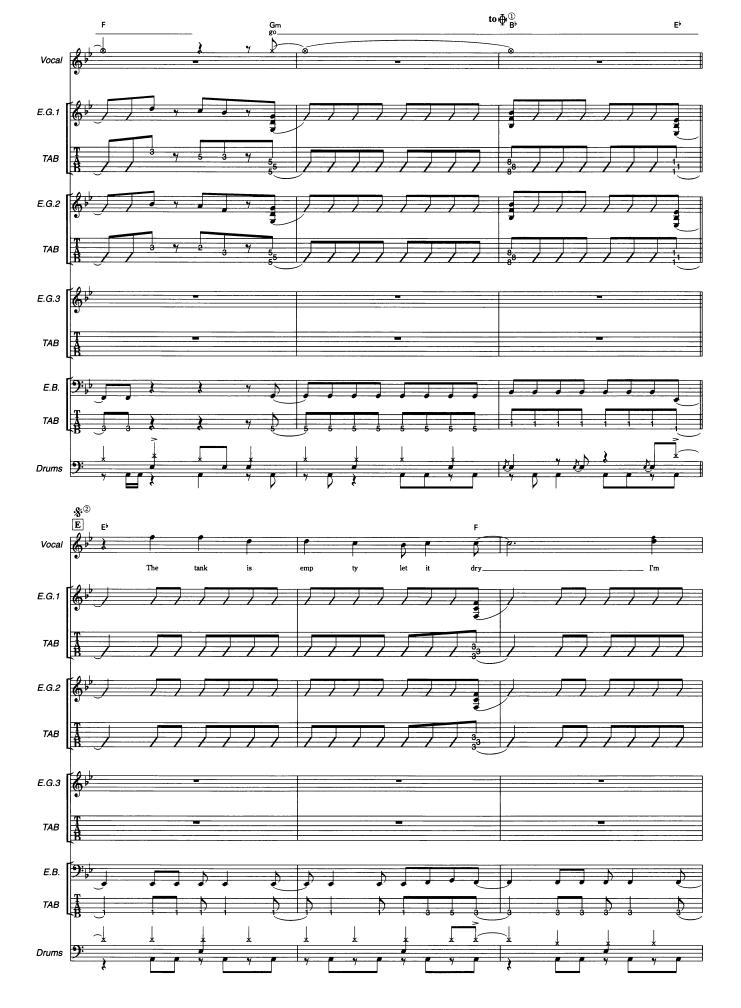


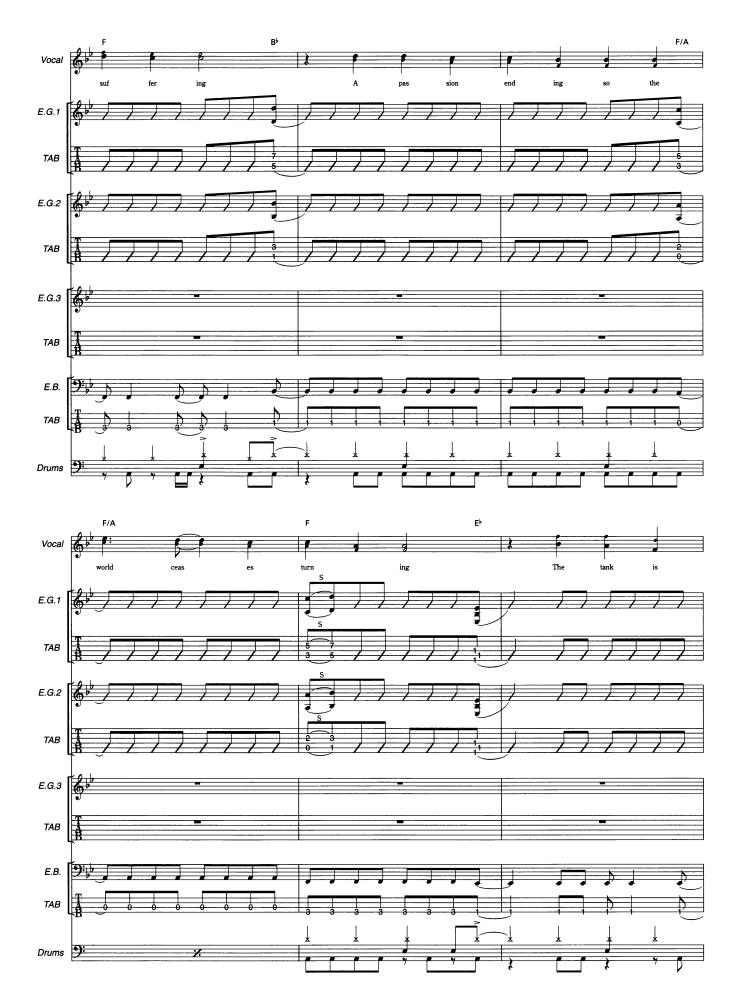




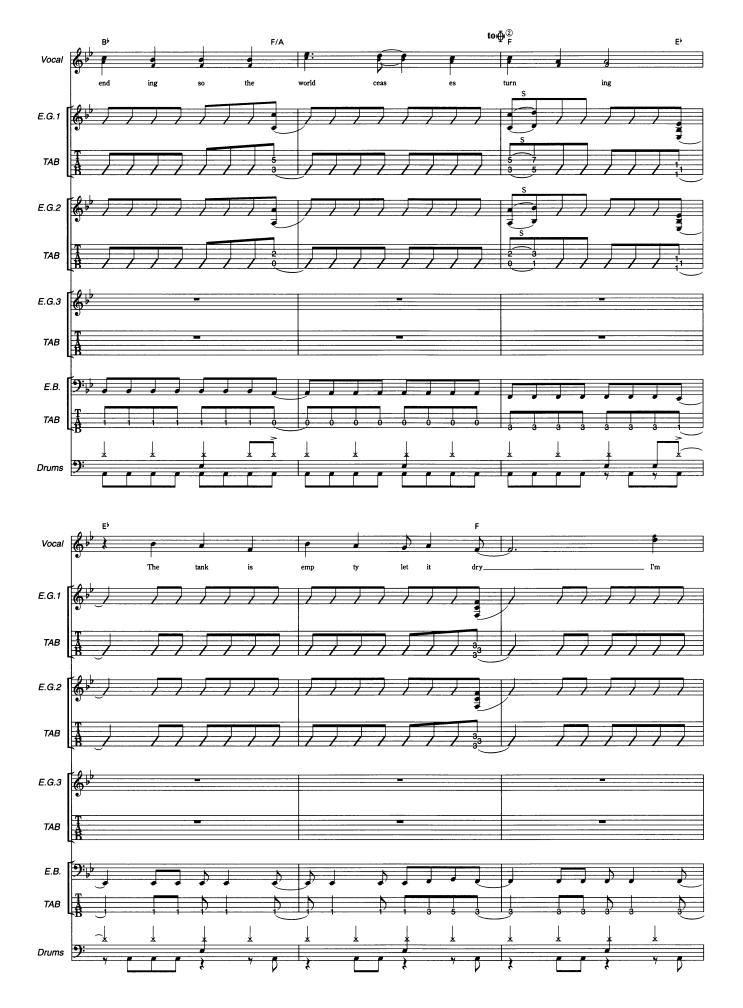




















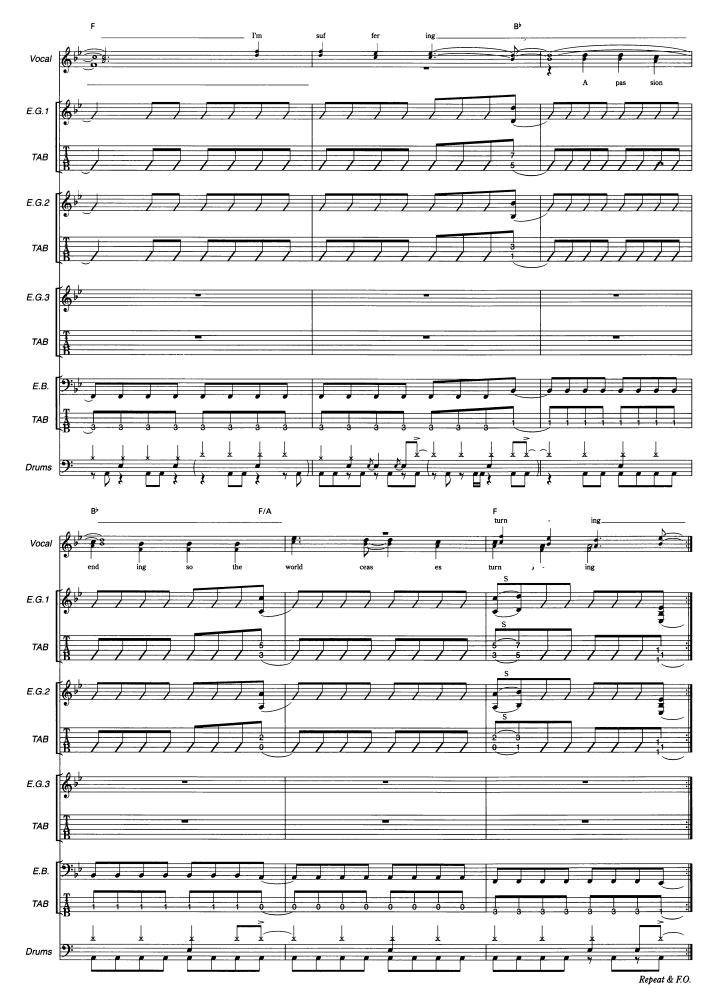












SAY GOODNIGHT

セイ・グッドナイト Words & Music by Matthew Tuck, Jason James, Michael Paget and Michael Thomas





























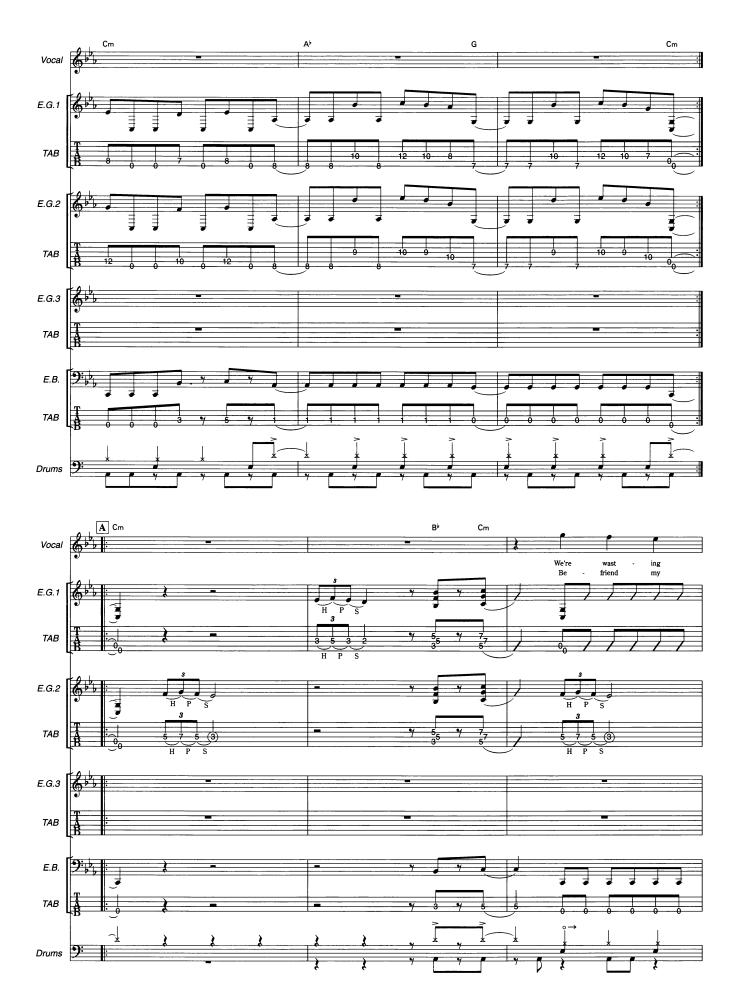


END OF DAYS

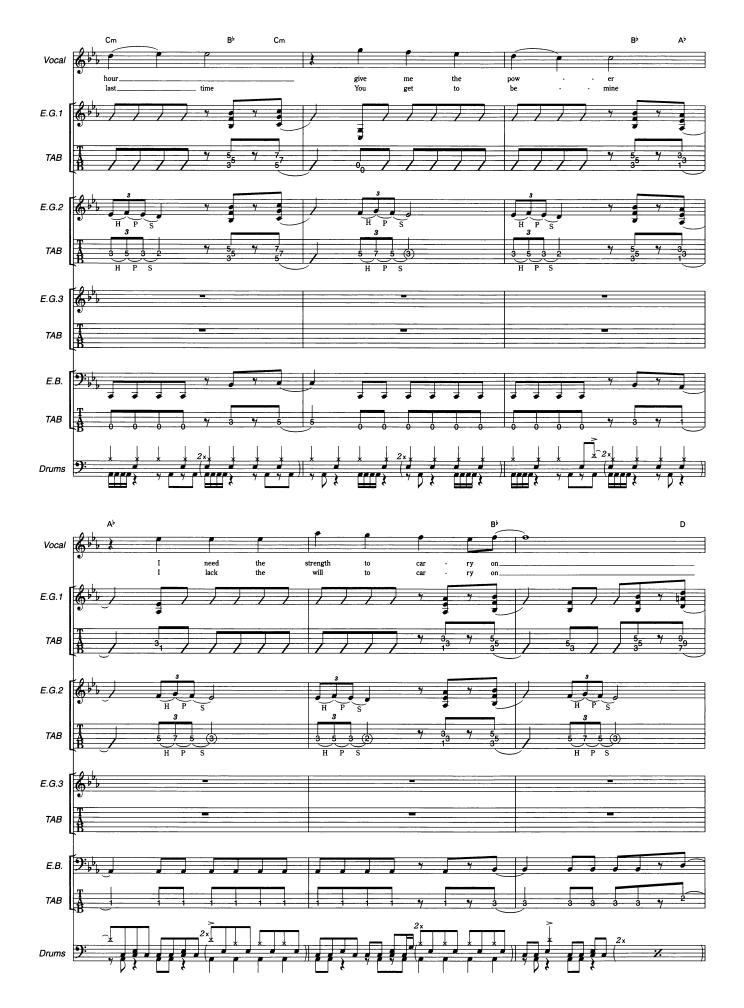
エンド・オブ・デイズ Words & Music by Matthew Tuck, Jason James, Michael Paget and Michael Thomas



© EMI MUSIC PUBLISHING LTD.
The rights for Japan controlled by EMI Music Publishing Japan Ltd.
Authorized for sale only in Japan.



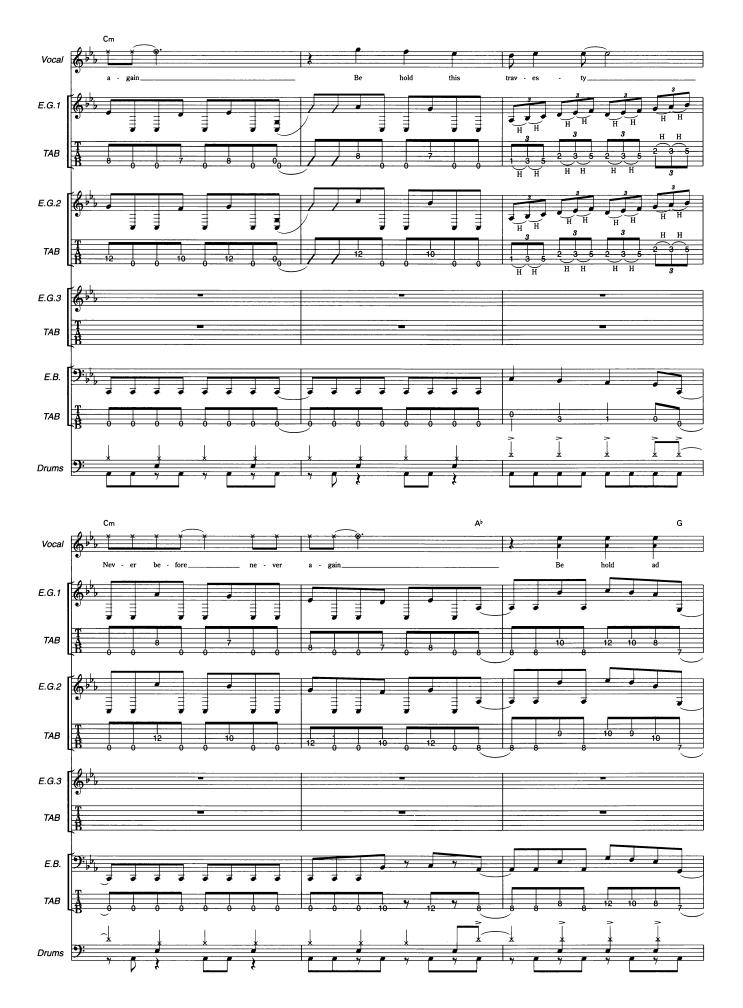


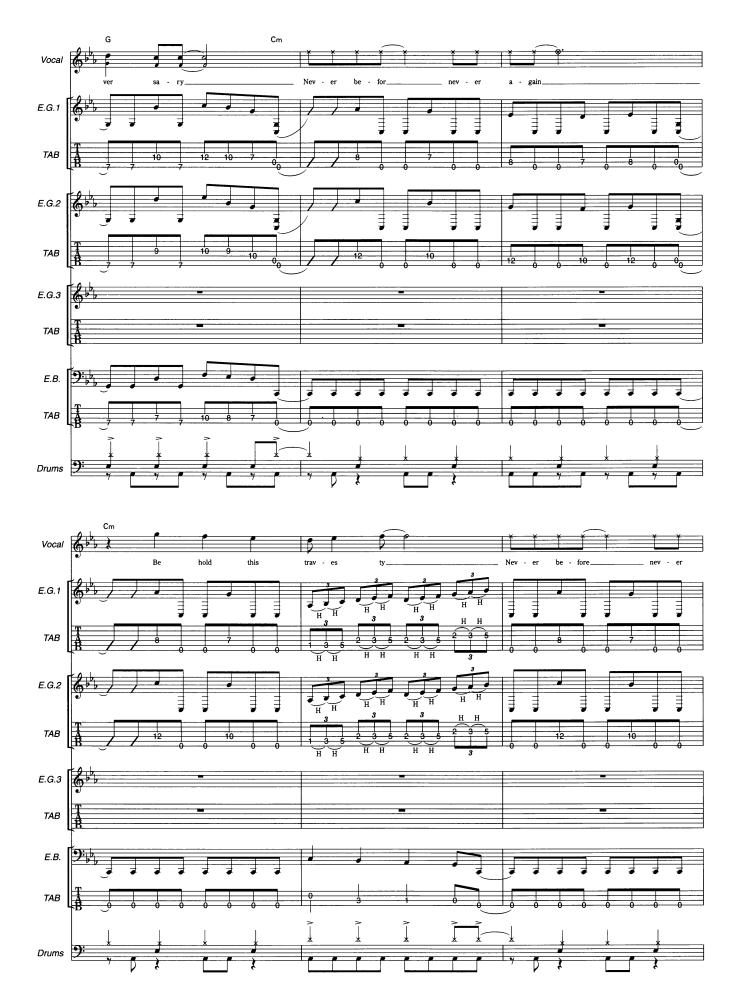


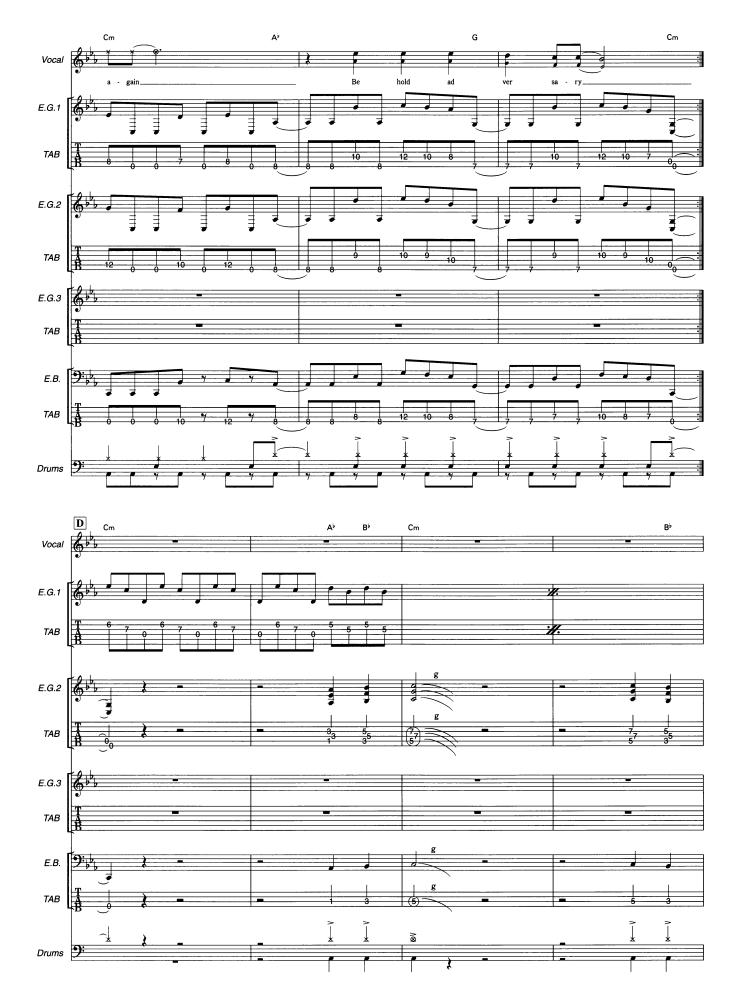












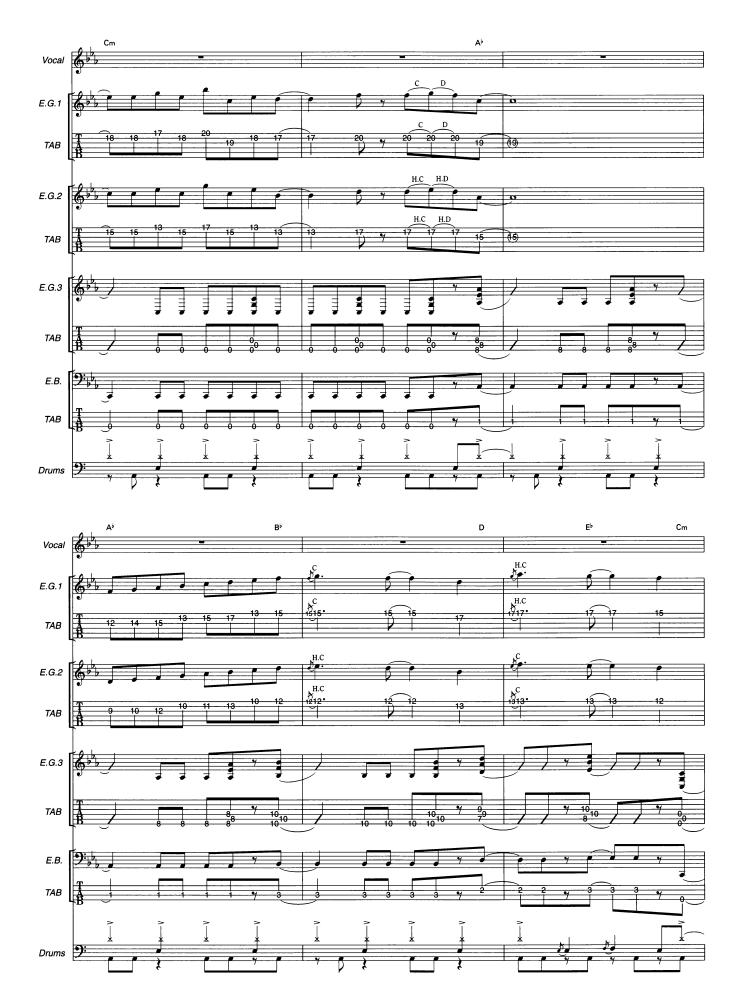


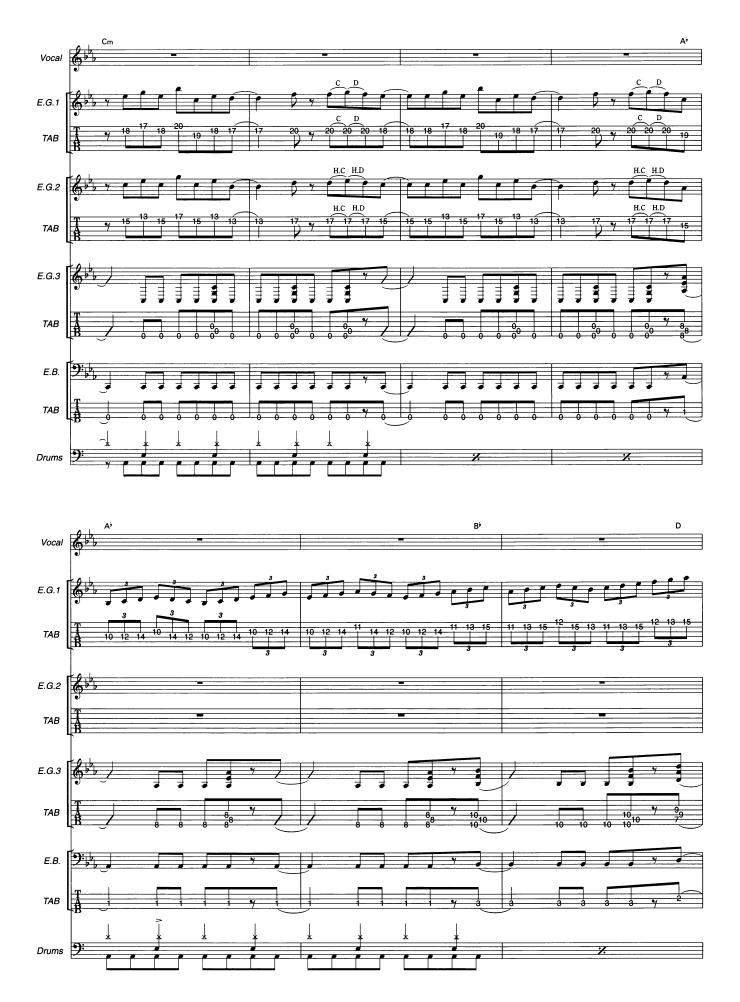
















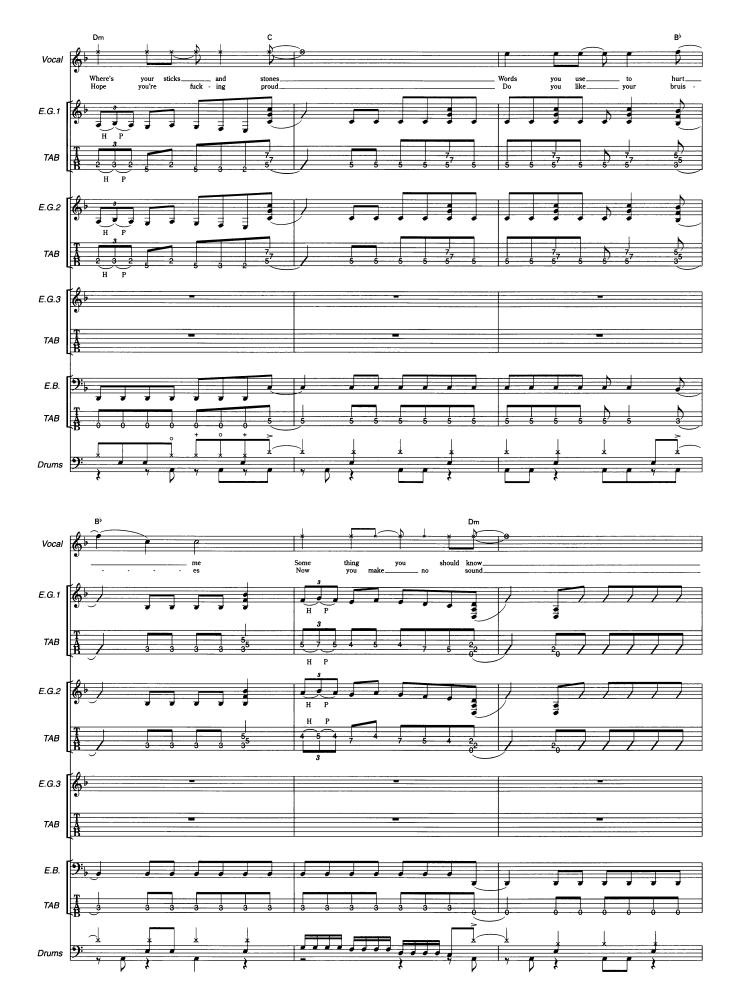


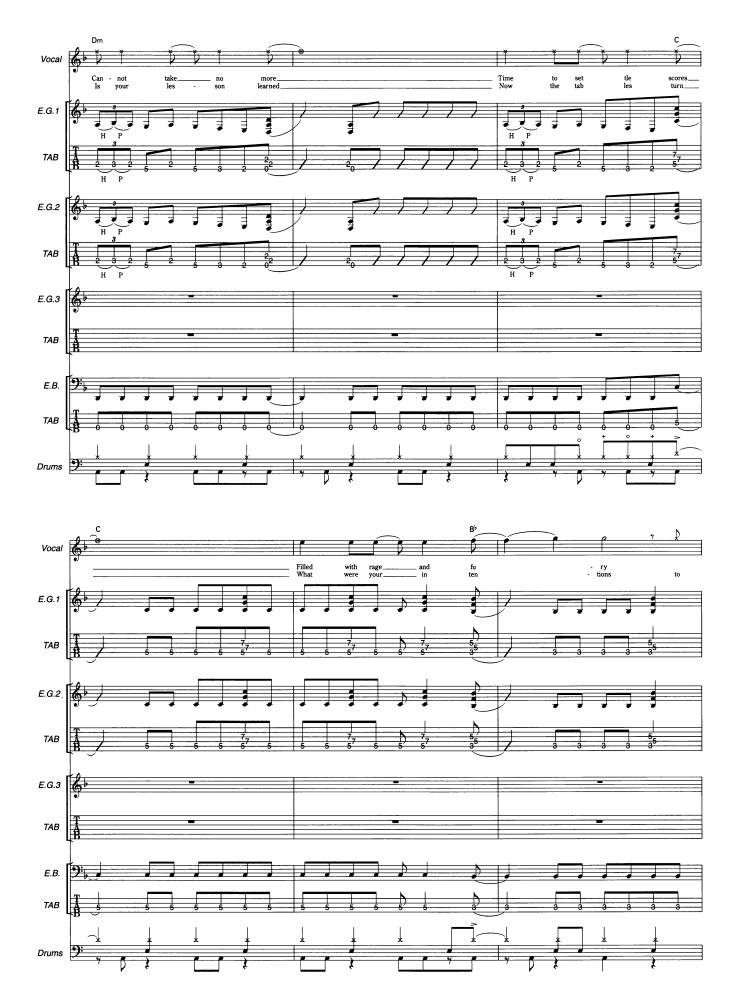
LAST TO KNOW

ラスト・トゥ・ノウ Words & Music by Matthew Tuck, Jason James, Michael Paget and Michael Thomas









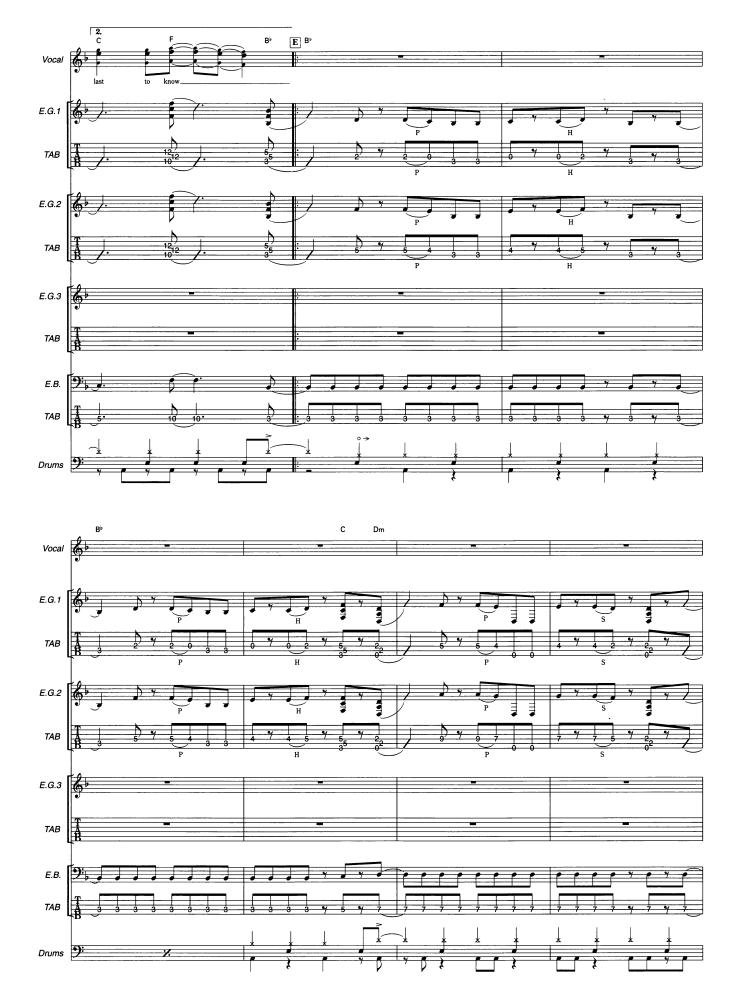


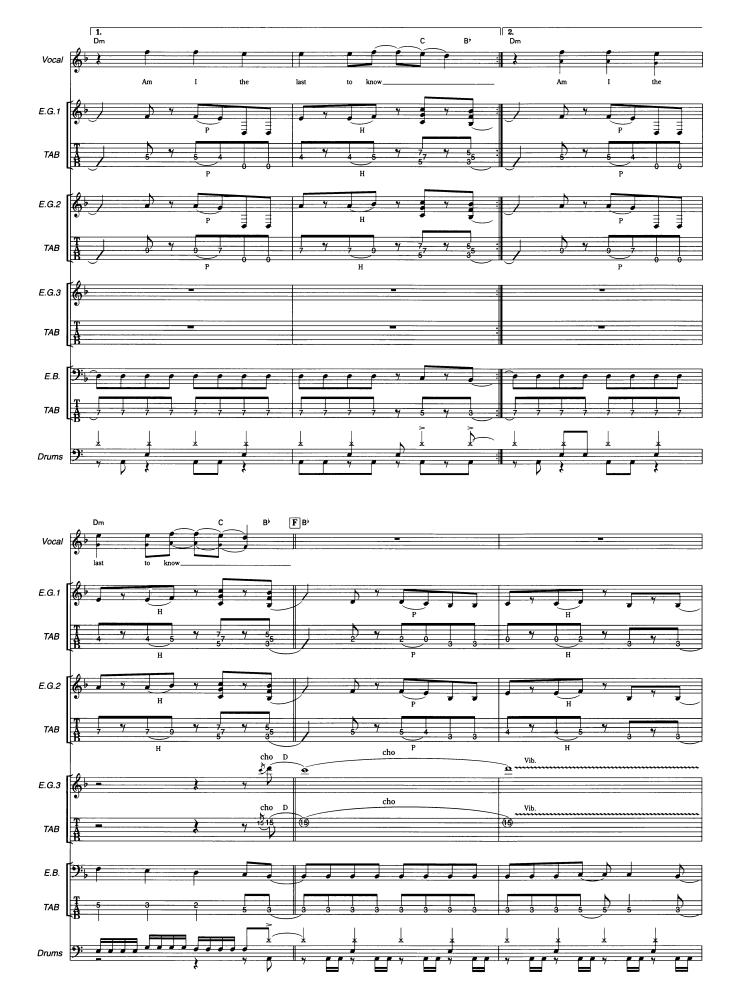




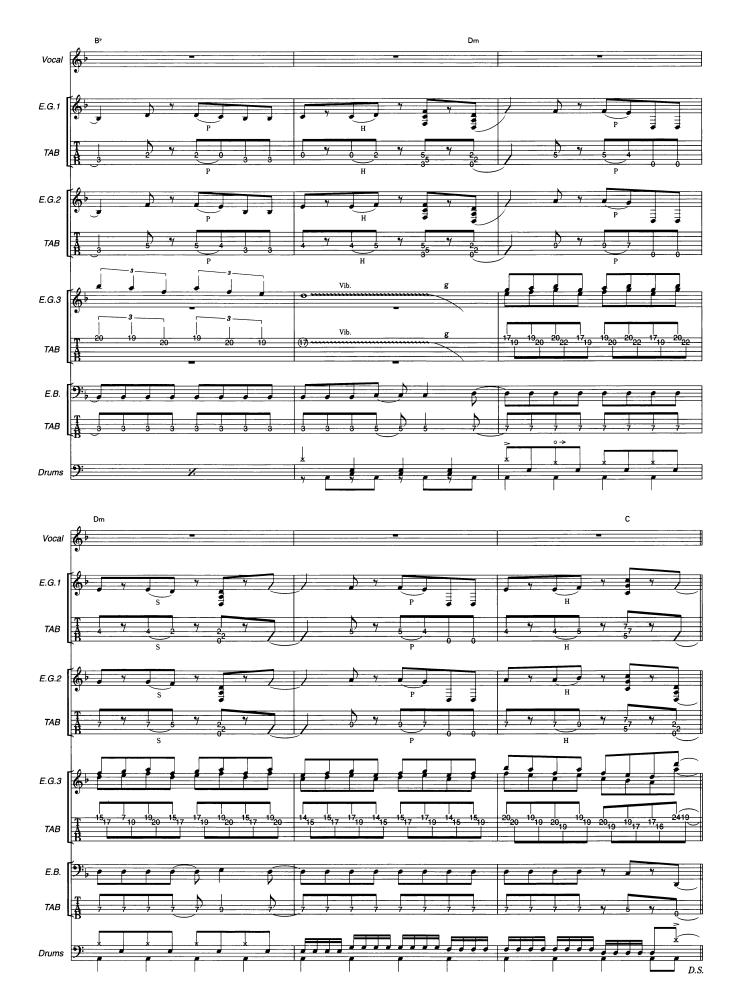










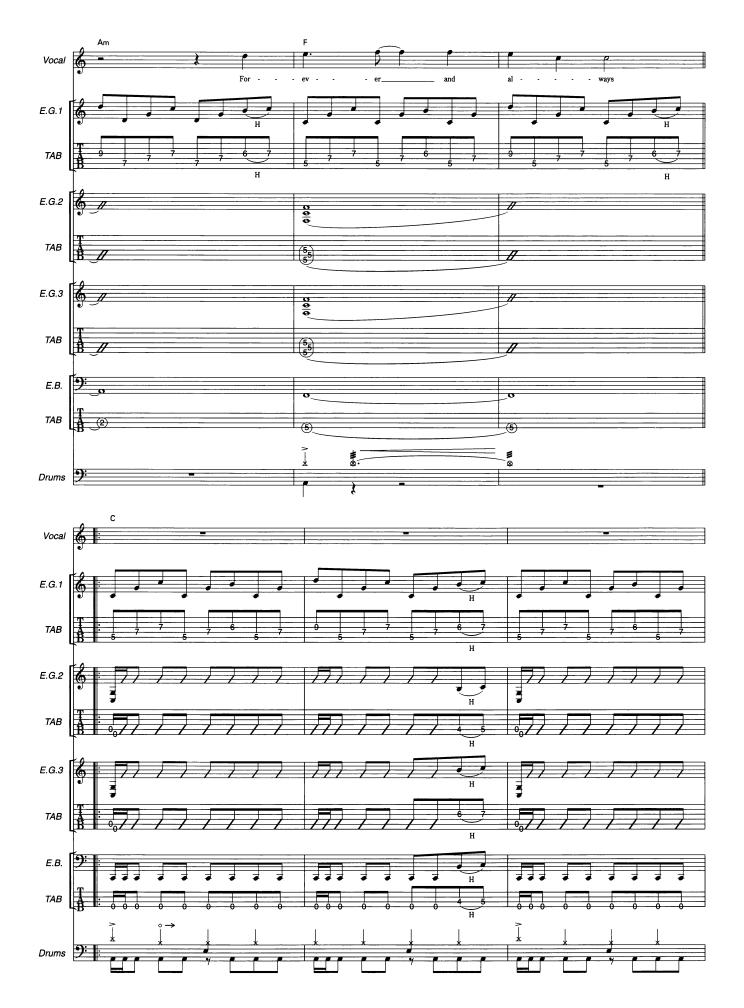


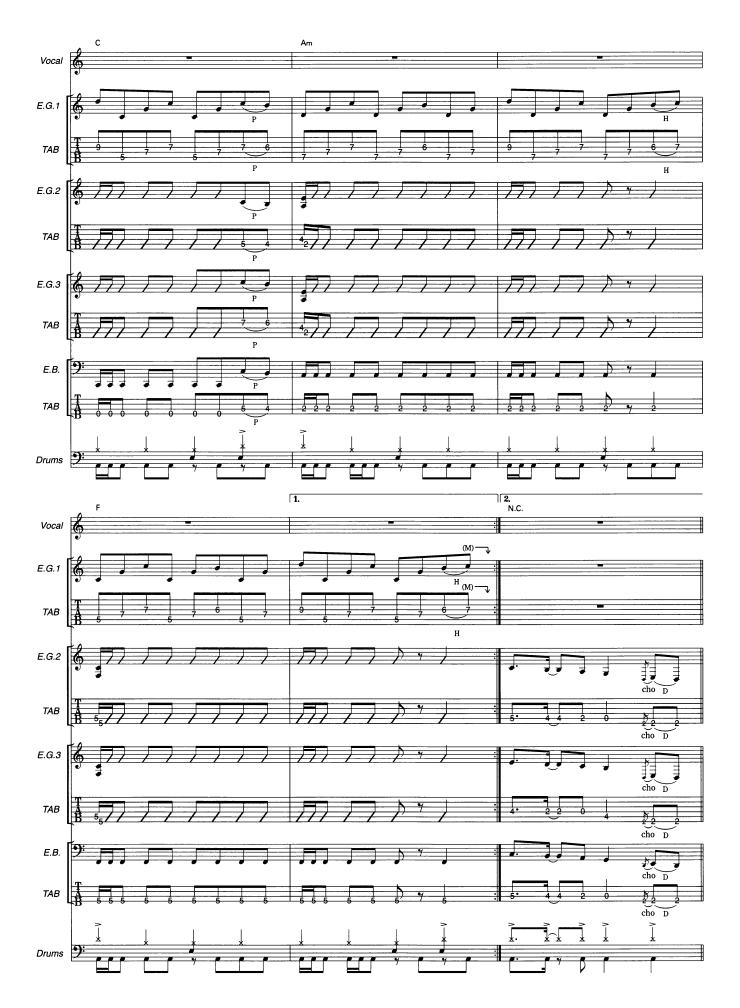


FOREVER AND ALWAYS

フォーエヴァー・アンド・オールウェイズ Words & Music by Matthew Tuck, Jason James, Michael Paget and Michael Thomas





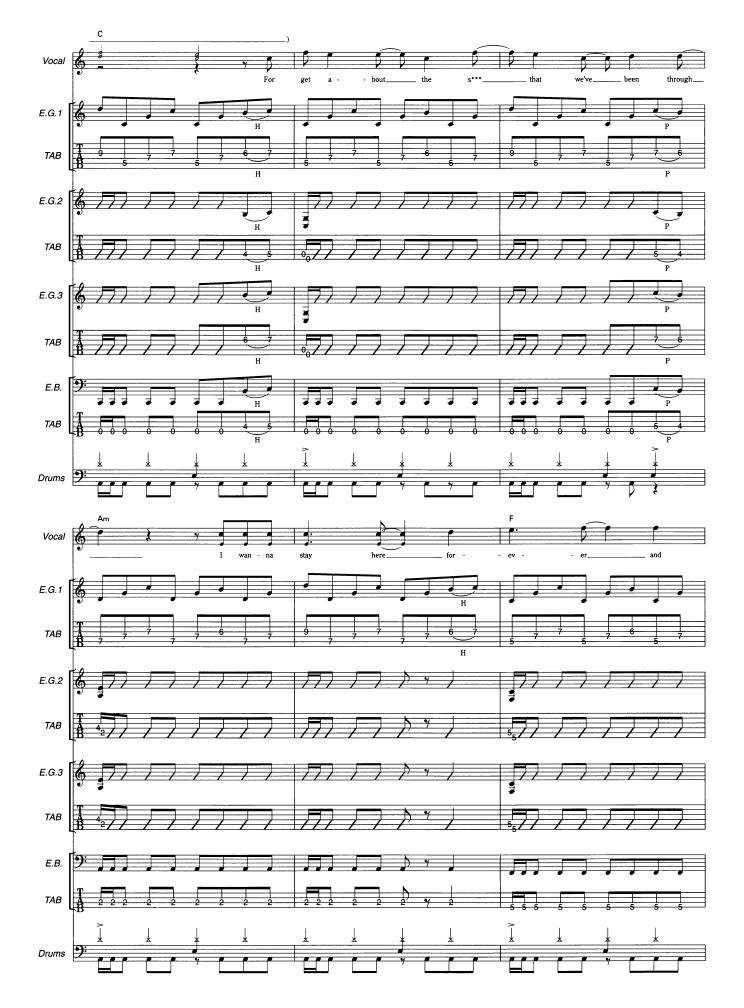


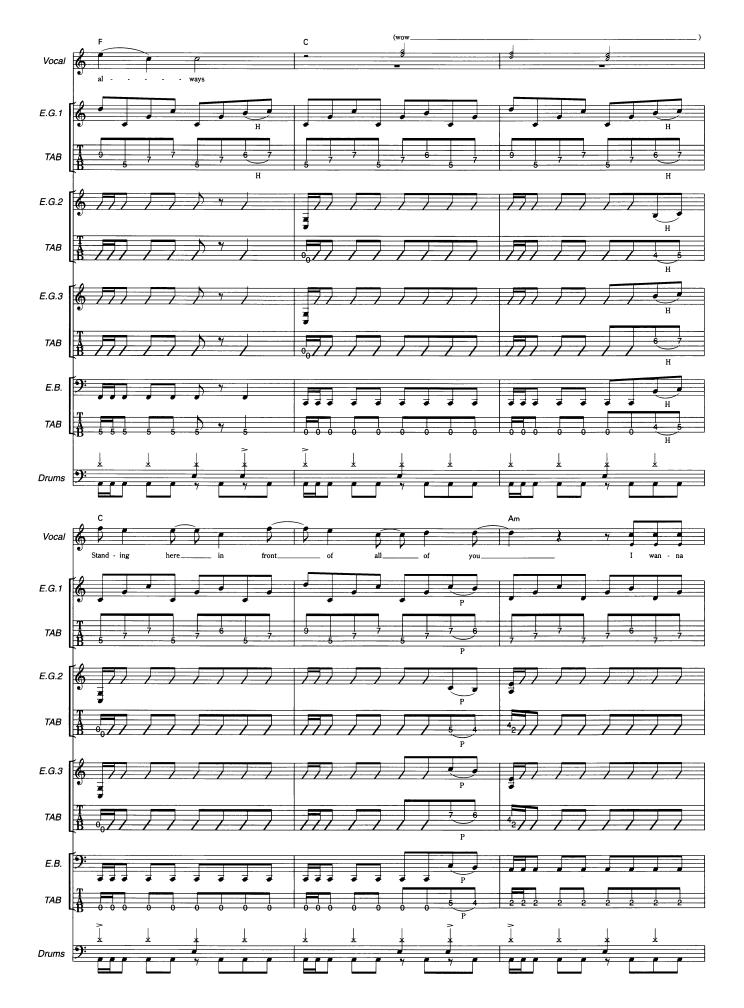




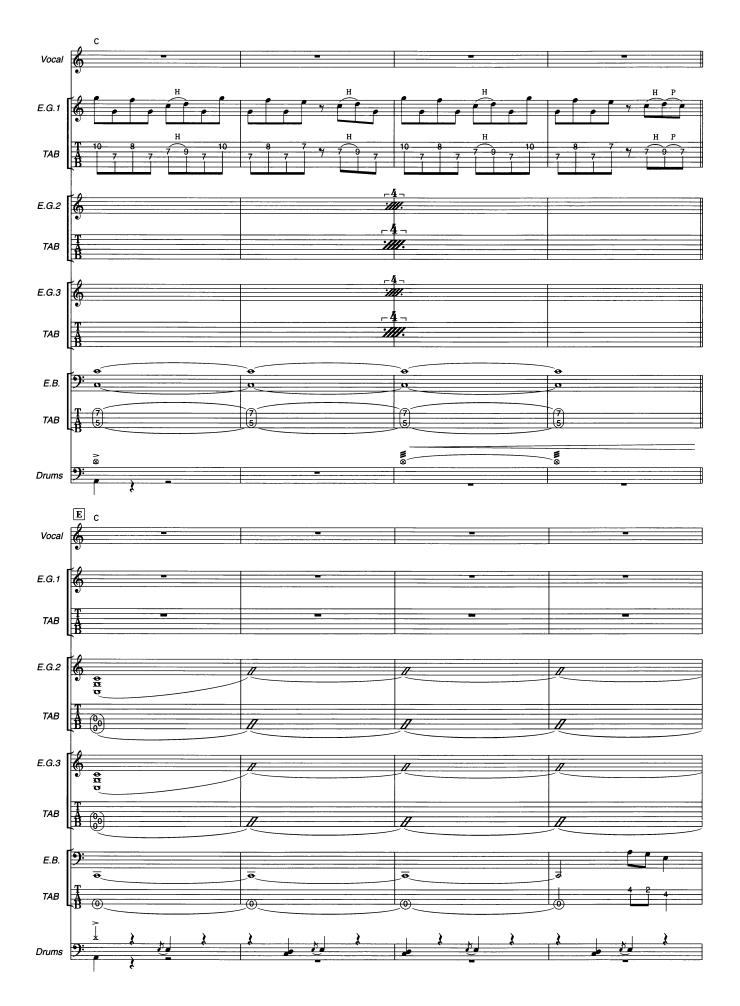
















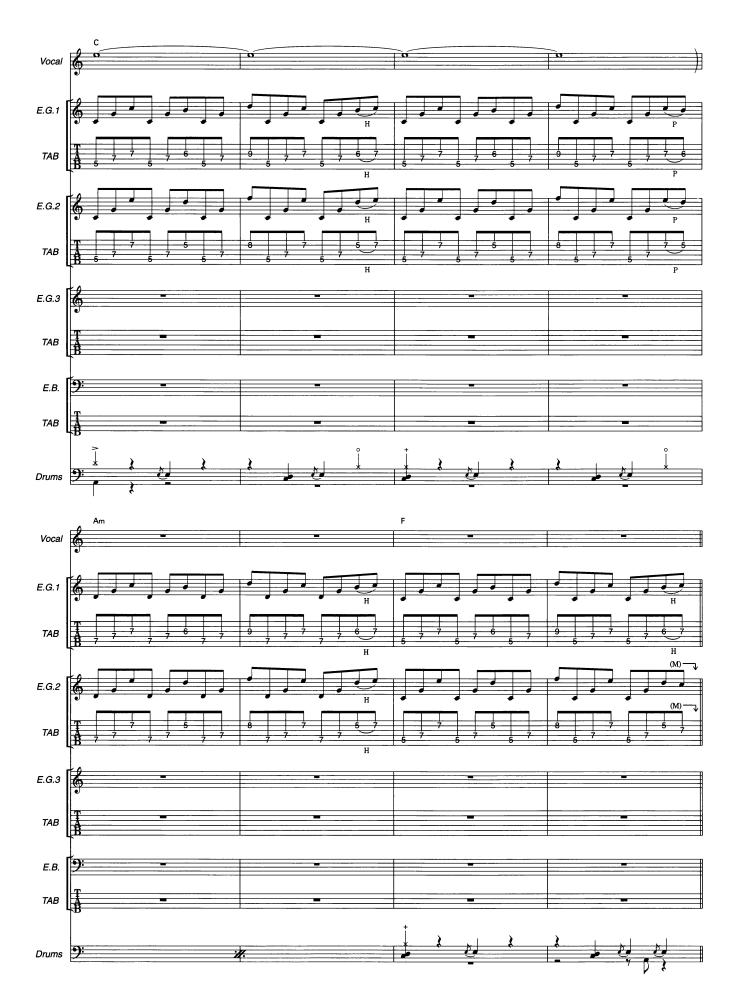
















ブレット・フォー・マイ・ヴァレンタイン

発 行 人 堂山昌司

Publisher SHOJI DOYAMA

制 作 森下彰夫

松原悦子

Producer AKI MORISHITA

ETSUKO MATSUBARA

発 行 イーエムアイ音楽出版株式会社

Published by EMI Music Publishing Japan,Ltd.

発 売 元 株式会社オクト出版社

〒107-0061 東京都港区北青山3-1-6 Tel. (03) 5772-2161 Fax. (03) 5772-2162

http://www.octmp.co.jp/

制作協力 株式会社BMG JAPAN

株式会社フジパシフィック音楽出版

千陽崇之 岡田研二

渋澤 弾/原口徹也(渋沢企画=装幀)

株式会社クラフトーン

印刷製本 日経印刷株式会社

2008年7月20日 第1刷 発行 ©

Printed in Japan



SCREAM AIM FIRE
EYE OF THE STORM
HEARTS BURST INTO FIRE
WAKING THE DEMON
DISAPPEAR
DELIVER US FROM EVIL
SAY GOODNIGHT
END OF DAYS
LAST TO KNOW

FOREVER AND ALWAYS



9784899991762



ISBN978-4-89999-176-2

C1073 ¥2800E





定価 [本体2800円+税] ★

